

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
②学校と地域 の課題	03 学校支援 ボランティアの 確保・育成	学校の行事、登下校や清掃等 において、教職員が実施する業 務が負担となっている。	各学校において、地域ボランティアを活用 し、登下校の見守りや学校授業への参加等 が出来た。今後、新たな地域ボランティアの 参加に向け周知を考えていく。	公民館事業や地域ボランティアによる行事、 登下校や清掃等へ参加することにより、教職 員の業務の軽減し、地域による学校への援 助を実施する。	公民館事業や地域ボランティア による行事、登下校や清掃等へ 参加することにより、地域との協 働が進み教職員の業務が軽減 する。	公民館事業や地域 ボランティアの参入 件数	5	件	41	130	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 地域ボランティアによる地域学校協働活動が定着し、図工の 刃物使用や家庭科のミシン、音楽での和楽器指導、登下校 の見守りなど、専門性や安全性が求められる場面で地域住 民が活躍した。 これらの活動を通じ、教職員の負担が一定程度軽減し、子供 たちは地域に見守られながら豊かな感性を育み、学校と地域 が車の両輪となって教育環境を支える体制がより強固なもの となった。
③学校と家庭 の課題	家庭等におけ る学習習慣の 定着	学校以外で学習を行う習慣が ない児童生徒が増えており、学 校の授業以外で学習を行うこと に対する指導等が学校・家庭 の共通の課題となっている。	定期的な学習時間の確保に努める。(1日 30分程度)学校から配付されたタブレットを クラブ室で使えるよう環境整備を実施。	・定期的な学習時間の確保に努める。(1日 30分程度)	放課後における学習習慣を定着 する。	クラブ利用者アン ケートにおける、勉強 時間が十分とする児 童の割合(回答5項 目のうち、そう思う・ ややそう思う・普通の 合計)	81	%	81	83	03 本年度の目標値を見られた 昨年度のアンケート結果を共有し、さらなる改善を呼びかけ たことから、目標を達成できた。引き続き定期的な学習時間 の確保に努めていく。
③学校と家庭 の課題	放課後等にお ける多様な体 験活動	人権教室や読み聞かせなど の、児童の体験活動の機会を 引き続き確保する必要がある。	児童の体験活動について地域、団体や市 職員等との連携を図りつつ、体験機会を行 う。(2か月に1～2回程度)	・児童の体験活動の実施。(2か月に1～2回 程度)	放課後における多様な体験活動 を行う。	年間当たりの体験活 動日数	10	そ の 他	10	10	03 本年度の目標値を見られた 昨年度に引き続き、目標としていた10日を達成できた。また、 地域で活動する団体や、学校との連携、県政出前講座の実 施を通して、多種多様な体験活動を実施できた。